

令和元年度 第3回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録

日 時	令和2年2月17日（月）午後7時00分～9時00分
場 所	磐田市役所本庁舎4階 第2会議室
出席委員	池上 重弘会長、藤田 允委員、高塚 勝久委員（代理：鈴木 ゆみ）、平野 利直委員、渡邊 カルロス委員、相川 アンジェラ委員、鈴木 啓和委員、青島 彰委員、伊藤 知子委員（代理：松尾 真里）、田中 琢問委員
事 務 局	地域づくり応援課長、課長補佐、職員2人
オブザーバー	学校教育課（中安） 多文化交流センター2名（杉田・山田）

[会議内容]

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 市内外国人等数の状況【資料1】

(2) 外国人従業員に関するアンケート結果【資料2】

(3) インターナショナルフェアの開催結果

4 協議事項

(1) ワークショップの意見から具体的施策の検証【資料3】

(2) 多文化共生推進プランの進捗【資料4】

(3) 第4次磐田市多文化共生推進プランについて【資料5】

5 閉会

[会議概要摘録]

1. 協議事項

(1) ワークショップの意見から具体的施策の検証

テーマ1「外国人住民の地域社会への参画について」

（企業との連携について）

●外国人が地域社会に参画するには、企業から地域に繋いでもらった方が、参加しやすい。磐田市でそのような取り組みをしている企業は少ないとはいえ存在しているため、裾野を広げるための仕掛けが必要。

●商工会議所や商工会で、取組みの事例紹介をやることはどうか。また婦人部・青年部といった下部組織に働きかけることが、まずは有効でないか。

●企業に働きかける場合、学識経験者より経営者が、経営者の目線で必要性を語る事が重要。ただし、事例紹介の場を設定するにあたり、行政の橋渡しが必要。

●浜松いわた信用金庫が主催している「未来塾」を活用するのも良い。

●人手不足であるといわれているが、外国人に丁寧に教えれば、日本人と遜色ない仕事ができる。そのような成功事例を広めていければ人手不足感は解消し、むしろ

多様な人材が増えて強みになる。

(日本人の受け入れ体制について)

- 外国人の方に地域活動に参加してもらうためには、自治会活動について理解をってもらうことが重要。外国人の方で自治会に加入している人もいるので、その中からリーダーが生まれると良い。
- 外国では、自治会がないため皆で掃除すること等に慣れていない。インターナショナルフェア等の催しと組み合わせ、外国人に自治会の事を知ってもらえれば。
- 自国の言葉で、説明を聞くことは有効。例えば、夏祭りにフィリピンの方が舞台上で踊り、タガログ語で自治会の話などをすると、伝わるのでは。
- 日本人側の受け入れ態勢が整っていないという課題については、避難所で外国人対応パックのような、補助具を配備すればどうか。補助具があるということで受け入れる日本人にも安心感が生まれる。
- インターナショナルフェアに日本人のお祭りを取り入れれば、外国人も参加できて楽しめる。そこから地域の祭りへの参加につながるかも。

テーマ2「外国人児童生徒への支援」

(プレスクール)

3月から学校教育課でプレスクールを以下のとおり実施予定

目的：外国のルーツをもつ子ども及び保護者が、小学校生活を安心して迎えらるることを目的とする。

内容：2月末から3回、午後3時から4時に実施する。

子どもには「給食」「文房具」「教科」を各回のテーマに模擬事業を実施。保護者に対しては日本語コーディネーターによる講話のほか模擬授業を参観してもらう。

説明後の委員からの意見等は以下のとおり

- 保護者が日本の学校のことを分かっていると、子どもも安心できる。プレスクールは学校生活で保護者として必要なこと（欠席するときは連絡する等）を伝えることが目的の一つである。
- 磐田では外国人として学校に通っていた人が、プレスクールに関わることができる。そのような人の話は、想像以上に、外国人の保護者の胸に響くのではないか。
- 日本人では思いつかないことを心配に思う人がいるかもしれないので、フィードバックをしっかりと行って、改善に努めてほしい。

(学習支援及び通訳体制の充実)

- 市役所の相談窓口では、増加傾向にあるベトナム・タイ語にも対応しているが、今後、特定技能が定着してくれば、カンボジア・ミャンマー語等への対応も必要になる可能性がある。
- 10数年前は、ブラジル人を対象にしていれば、通訳や多文化共生的なことにも対応できたが、多国籍になると困難になる。
- 外国人保護者会では堅苦しい感じにせず、地域と協力しイベント的なことも取り

入れるなど柔軟な対応していかなければ、太刀打ちができない。

●南御厨地区で実施している軽トラ市では、多文化交流センターに通っている子と親が参加するなど、地域との繋がりがある。軽トラ市的なことを学校でやれば、一体感が生まれるかも。

(2) 多文化共生推進プランの進捗について

年度途中のため実施中の事業もあるが、概ね計画どおり行われている。

(3) 第4次磐田市多文化共生推進プランについて

来年度、市民意識調査を実施する予定。対象及び調査内容は、第4次プランの方向性と併せ、来年度に検討する。

2. その他

「いわたインターナショナルフェア 2020」について（報告）

●過去6年間は、「いわたインターナショナルフォーラム」という名称で、ワークピア磐田を会場に実施していた。一昨年からは、ららぽーと磐田と繋がりが出来たことで、名称とともに会場を同施設に変更し、令和2年2月16日（日）に実施した。

●イベントの趣旨は「多文化共生社会の推進」。今までは、共生社会を実現するメンバーの繋がりづくりに主眼を置いていたが、多文化共生社会を一般に広く知ってもらうために、ららぽーと磐田で実施した。

●「日本語のスピーチ」「夜間中学校のドキュメンタリー映画（こんばんはⅡ）の上映」「屋内ステージでのサンバ」などを実施した。多くの人が行き交う中で、色々な文化や人々がいるということが楽しい、おもしろいと感じてもらい取り組み作りに課題を感じた。